愛知教育大学研究報告，49（教育科学編），pp. 55～63, March, 2000

高校生のエイズ意識及びリスク行動に関連する要因

高橋丈司・端谷　毅・佐藤猛男

Takeshi TAKAHASHI・Takeshi HASHITANI・Takeo SATO

（心理学教室）（愛知県環境衛生課）（愛知県食品衛生検査所）

I．目　　的

本研究の目的は，高校生における HIV 感染のリスクを最小限にすることに役立つことである。我々は，先に（高橋ほか，1995），学生と社会人を対象に，HIV 感染の予防策を考えるために，エイズに対する知識，態度及びリスク行動を調査したが，その主な結果の一つに，エイズリスク行動に関して，同じ20歳前後の若者に，大きな違いかあることを見出した。即ち，HIV 感染のリスク行動が，専門学校生は多く，逆に四大生，短大生は少なかった。ここで，リスク行動とは，特定のパートナー以外との性行為及びその際のコンドームの不使用である。これは，18歳よりも前のところでのエイズ予防教育の必要性及びそのための基礎的調査の必要性を強く示唆している。

1998年11月15日の WHO の報告によれば，全世界のエイズ患者数は，198万人である。アフリカ全体では70万である。アフリカの多発国別の患者数をみると，タンザニア10万，ケニア８万，ジンバブエ７万，ウガンダ６万であり，池内（1999）によれば，南アフリカ共和国では，生殖年齢にある成人の22%がエイズウィルス（HIV）に感染していると推定されるという。これは，国の政治，経済，文化，社会生活が危うくなる危機的事態である。

また，1998年の WHO の報告によれば，アメリカ合衆国（以下アメリカと記す）のエイズ患者数は，69万人である。1994年の WHO の報告では，41万人であったので，この４年間に28万人もエイズ患者が増えたことになる。

Thompson, S. Z.（1996）によると，アメリカの青年のエイズ患者数は，１年で70%増加し，14カ月毎に倍になっていくという。21歳から29歳のエイズ患者は，エイズと診断された人の21%を占める。エイズウイルスが，10年あるいはそれ以上潜伏するとすると，エイズと診断された若い大人の多くが，10代の時に，HIV に感染したと結論することができると言っている。そして，アメリカの青年は HIV 感染のリスクがあると知られている多くの行動をする。ほとんどの青年，即ち，女性の83%，男子の91%は，18歳までにセックスを経験しており，高校生の21%は４人以上のセックスパートナーを持ったと報告している。青年の性感染症の罹患率は７人に１人の割合であり，若い大人や青年の HIV 感染率は500人に１人の割合である。これは，多くの若者が無防備な性交渉をしていることを示唆している。

日本では，1999年６月27日の厚生省の報告によると，エイズ患者数は，2,065人（血液凝固因子製剤（以下血液製剤と記す）による患者691人を含む）である。また，HIV 感染者数は，6,019人（血液製剤による感染者1,434人を含む）である。感染源の第一は異性間の性的接触であり，その数は2,130人で，全感染者の35%である。次が，血液製剤で，24%である。３番目は同性間の性的接触で，1,132人，19%である。静脈注射による薬物濫用及び母子感染は，それぞれ１%未満である。なお，不明及びその他が21%ある。

感染源の第一位の異性間接触による感染者数は，５年前は749人であるので，この５年間に約３倍に増えている。

アフリカやアメリカの悲劇を，日本で繰り返さないために，エイズを引き起すウィルスである，HIV の感染の広がりを防ぐことが緊急に必要である。

本研究は，日本の HIV 感染の広がりの予防策を考えるために，高校生を対象として，エイズに関する知識と態度，エイズ予防教育，性行動，及び性行動の先行要因として，飲酒，喫煙，学校生活の楽しさ，進路，勉強意欲，学業成績を調査した。

なお，本報告は，カナダのバンクーバーで開かれた第11回国際エイズ会議で発表した内容を日本文に直し，加筆したものである（Takahashi, T. 1996）。

II．方　　法

１．調査対象

調査対象は中部地方の大都市郊外の３つの高校の２年生及び３年生である。有効回答数823名（内訳男304名，女519名，２年生627名，３年生197名）有効回収率96.8%

２．調査期間

1994年11月から1995年１月である。

3．調査方法

調査は授業の際に実施され，被調査者は，無記名で質問紙に回答し，封筒に入れて封をして提出した。

4，集計及び分析

計算は，名古屋大学大型計算機により行い，プログラムは SAS を使用した。検定は，F検定，χ^2検定によった。

III．結果及び考察

1．エイズに関する知識

ア　HIV 感染ルートの知識については，全回答者の93%が異性間性的接触が感染ルートであることを知っており，男性間性的接触，静脈注射による薬物使用，母子感染については，約80%の者が知っている。

また，回答者のほぼ半分が，輸血を感染源としてあげている（表1－1）。日本の HIV 感染者の多くは，医者によって与えられた血液製剤を使用した血友病者だということを考える時，これは，間違っているとは言えないだろう。

イ　HIV の検査は，感染の機会があってから最低どの程度の間隔があるかについて質問したところ，正解の「3カ月」は26%しかなかった。「分らない」が最も多く，40%である（表1－2）。感染の機会があることを前提としたエイズ教育は，高校では十分に行われていないようである。

ウ　感染してから発病までの潜伏期間について，65%の者が「1年から10年」と正解を回答しているが，12%の者が「1年未満」と回答し，23%の者が「分らない」と言っている（表1－3）。高校でのエイズ予防教育の必要性を感ずる。

2．エイズに対する意識（態度）

ここでは，エイズに対する関心（質問9）からエイズにかかる危険性の回避（質問15）までを報告する。エイズに対する態度は，HIV 感染の恐れのある性行動

表1－1　感染経路（複数回答）

感染経路		食器を共有	蚊に刺され	男性同性愛	異性間性行為	くしゃみ等	理・美容所	プール等	輸血・献血	注射器回し	トイレ便器	電車吊り革	握手	日用品	母親から
人　数	823	9	54	643	765	27	29	9	374	663	13	6	10	12	641
	%	1.1	6.6	78.1	93.0	3.3	3.5	1.1	45.4	80.6	1.6	0.7	1.2	1.5	77.9

表1－2　感染の機会から検査までの期間

受検時機		1　週　間	3　週　間	1　か　月	3　か　月	わからない	無　記　入
人　　数	823(100.0)	37(4.5)	123(15.0)	120(14.6)	211(25.6)	326(39.6)	6(0.7)

表1－3　潜伏期間

潜伏期間		2～8週間	3　か　月	1～10年	わからない	無　記　入
人　　数	823(100.0)	22(2.7)	75(9.1)	531(64.5)	191(23.2)	4(0.5)

表2－1　エイズ意識（リスク認知）

	人　数	関　心　度		不　安　度		被　害　度		防止可能性		国による対策の可能性		危険の回避		知　識　度	
	人	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
全　体	823	3.53	1.15	3.22	1.25	3.47	1.52	4.49	1.14	3.90	1.27	4.70	1.00	3.26	1.00
[学年]															
2　年	627	3.41	1.13	3.17	1.23	3.48	1.54	4.42	1.18	3.82	1.26	4.61	1.02	3.14	1.01
3　年	196	3.93	1.13	3.36	1.30	3.41	1.44	4.74	0.98	4.17	1.25	4.97	0.86	3.66	0.87
有意差		***		—		—		***		***		***		***	
[性]															
男　子	304	3.42	1.27	3.05	1.32	3.59	1.59	4.51	1.25	3.79	1.32	4.69	1.12	3.28	1.05
女　子	519	3.60	1.08	3.31	1.20	3.40	1.47	4.48	1.08	3.97	1.23	4.70	0.92	3.25	0.97
有意差		*		**		—		—		—		—		—	

F検定　***　$p<0.001$　**　$p<0.01$　*　$p<0.05$

をとるかとらないかに影響すると考え，調査した。即ち，どの位エイズに関心があるのか，どの位リスクを認知しているのか，それらは，リスク行動に影響するだろう。

各質問とも，選択肢を極めて否定的な項目〔例　質問9では(1)全く無関心である　〕から，極めて肯定的な項目〔例　質問9では(6)非常に関心がある〕までの6つを用意し，心理的にほぼ等間隔にこれらの項目を提示したので，結果は，項目番号をそのまま数値化して処理した。結果は，全体の傾向と学年差と男女差を述べることにする。

ア　エイズに対する関心度（質問9）は，表2-1が示すように，全体（823名）の平均（M）は3.53で，「やや無関心である」と「少し関心がある」の間である。関心が高いとはとても言えない。高校生は，エイズをまだ身近な問題として認識していない。

学年別でみると，3年生（M＝3.93）は，2年生（M＝3.41）よりも関心がある。1993年秋に行った調査（高橋ほか，1995）では，高校を卒業した大学生（四大生，短大生，専門学校生）はM＝4.24であった。大学に進むと関心を持つようになると考えられる。男女別では，女生徒の方が少し関心がある。

イ　エイズに対する不安度（質問10）は，「あまり不安を感じない」（M＝3.22）である。学年差はなく，性別では，女性の方がやや不安を感じている。

ウ.「エイズによって，あなたはどの程度被害を受けると思いますか」（質問11）に対して，平均は3.47で，「あまり被害を受けない」と「少し被害を受ける」の間である。標準偏差（SD）は1.52で，プラスマイナス1標準偏差をとると，「2　ほとんど被害を受けない」と「5　かなり被害を受ける」になﾝ　この間にかなりの者が入っている。学年差，性差..._い。

エ　それでは，「エイズ被害の防止の可能性」は，どのように認知しているだろうか（質問12）。「かなり又は少し可能である」（M＝4.49）と認知している。学年別にみると，3年生は，2年生より被害の防止を可能であると思っている。性差はない。

オ　「国や公共機関は，エイズに対して有効な対策を行うことがどの程度可能であると思いますか」（質問13）に対して，「少し可能である」（M＝3.90）と少しの信頼を表明している。学年別では，3年生の方が国や公共機関がエイズに対する有効な対策を行うことについて信頼している。性差はない。

カ　それでは，個人のレベルの努力で，HIVにかかる危険は，どの程度避けられると思っているのであろうか（質問14）。「かなり可能である」（M＝4.70）と思っている。学年別でみると，3年生は危険回避の可能性を2年生より高く考えている。

キ「あなたはエイズに関して十分な知識があると思いますが」（質問15）に対して，「知識はあまりない」（M＝3.26）と回答している。前項の，エイズに関する知識についての回答が示すように，エイズに関する高校生の知識は不十分である。もっと，エイズ予防教育を実施すべきである。学年別では，3年生の方が，知識は少しあると思っている。

3．エイズ予防教育

今までにエイズ予防教育を受けたことがあるかについて質問したところ（質問17），46%の者があると答えている（表3-1）。学年別では，3年生が2年生より，男女別では，女子が男子より高い。高校別では，33%から63%の差がみられる。

エイズに関する意識とエイズ予防教育の有無との関係に付いてみると，エイズ予防の教育を受けている者は，いない者より，「関心度」及び「知識度」が高い（表略）。

4．学校生活，進路，好きな科目，得意な科目

高校生の性行動の先行要因について知ることは，高校生に対して，エイズリスクを減らすための適切な教育を行う上で，大切なことである。

我々は，高校生の性行動の先行要因として，学校生活の楽しさ，進路，好きな科目，得意な科目，飲酒，喫煙を取り上げた。

ここでは，前者4つ（質問21から質問24まで）の一般的傾向を報告する。

表3-1　エイズ予防教育受講の有無　　（ ）内：%

予防教育		あ　る	な　い	無記入
人　数	823 (100.0)	380 (46.2)	432 (52.5)	11 (1.4)
[学　年]***				
2　年	627(100.0)	(41.0)	(57.4)	(1.6)
3　年	196(100.0)	(62.8)	(36.7)	(0.5)
[　性　]***				
男　子	304(100.0)	(36.2)	(62.8)	(1.0)
女　子	519(100.0)	(52.0)	(46.4)	(1.6)
[学　校]***				
A 高 校	196(100.0)	(62.8)	(36.7)	(0.5)
B 高 校	339(100.0)	(33.3)	(65.8)	(0.9)
C 高 校	288(100.0)	(50.0)	(47.6)	(2.4)

χ^2検定　＊＊＊　P＜0.001

表4-1　学校生活　　（ ）内：%

		全然楽しくない	あまり楽しくない	どちらとも	少し楽し	大変楽し
人　数	823人 (100.0)	65 (7.9)	107 (13.0)	279 (33.9)	223 (27.1)	149 (18.1)
[学年]***						
2　年	627(100.0)	(9.1)	(14.0)	(36.2)	(26.0)	(14.7)
3　年	196(100.0)	(4.1)	(9.7)	(26.5)	(30.6)	(29.1)
[性]**						
男　子	304(100.0)	(12.5)	(14.5)	(34.9)	(23.7)	(14.5)
女　子	519(100.0)	(5.2)	(12.1)	(33.3)	(29.1)	(20.2)

χ^2検定　＊＊＊　P＜0.001　＊＊　P＜0.01

表4-2　進路　　（ ）内：%

		就　職	四年制大学	短期大学	専門学校	未　定
人　数	823人 (100.0)	150 (18.2)	324 (39.4)	148 (18.0)	112 (13.6)	89 (10.8)
[学年]***						
2　年	627(100.0)	(22.5)	(36.7)	(15.6)	(12.8)	(12.4)
3　年	196(100.0)	(4.6)	(48.0)	(25.5)	(16.3)	(5.6)
[性]***						
男　子	304(100.0)	(12.2)	(62.2)	(1.3)	(11.8)	(12.5)
女　子	519(100.0)	(21.8)	(26.0)	(27.8)	(14.6)	(9.8)

χ^2検定　＊＊＊　P＜0.001

ア　学校生活の楽しさ

表4-1が示すように，「どちらともいえない」が一番多く，34%である。次が「少し楽しい」で27%，そして，「大変楽しい」18%である。従って，「楽しい」は「少し」と「大変」を合わせると45%になる。「楽しくない」は「全然」と「あまり」を合わせても21%である。学校生活に適応していないと思われるのは全体の1／5である。この層が，我々としては気になる。

学年差がみられるが，3年生を調査出来たのは1校だけであるので，そして，学校生活の楽しさは，学校の雰囲気に大いに関係するので，学年差というよりは学校差と考えたい。性差があり，女子の方が学校生活に適応している。

イ　進路

先の，学生及び社会人を対象とした調査(高橋ほか，1995）では，専門学校生は，大学生や短大生よりも，「特定のパートナー以外の人との性行為の経験がある」者が，はるかに多かった。そして，また，その際，「コンドームを全く使用しなかった者」が，専門学校生は，大学生や短大生にくらべて多かった。即ち，同じ若者であっても，専門学校生は，HIV感染のリスク行動をとる者が，四大生や短大生よりも多いことが分った。従って，高校生の場合，進路が，専門学校や就職の場合，性経験のある者が，大学や短大志望の者より多いのではないかと考えられる。

表4-2が示すように，大学進学志望が39%，短大18%，就職18%，専門学校14%，未定11%である。大学及び短大を合わせると，57%になる。この57%のうち，希望しながら，自分の思い通りにならない者が何%か出ることを考えると，今回の我々のサンプルは，ほぼ，高校生の平均的なところにあると言えよう。

学年差はあるが，これは，前項で述べたように，学校差と考えたい。性差があり，男子は大学進学志望が圧倒的に多く，女子は，短大，大学，就職，専門学校の順である。

ウ　好きな科目

アメリカのBrooks-Gunnら（1988）は，勉強意欲及び学業成績が低いと，HIV感染のリスクのある性行動をとりやすいと述べている。

表4-3-1　好きな科目　英語　　（ ）内：%

		全く好きではない	あまり好きではない	どちらとも	少し好き	大変好き
人　数	823人 (100.0)	176 (21.4)	216 (26.3)	195 (23.7)	156 (19.0)	80 (9.7)
[学年]***						
2　年	627(100.0)	(23.8)	(27.8)	(23.9)	(16.8)	(7.8)
3　年	196(100.0)	(13.8)	(21.4)	(23.0)	(26.0)	(15.8)
[性]***						
男　子	304(100.0)	(24.3)	(27.6)	(27.6)	(14.5)	(6.3)
女　子	519(100.0)	(19.7)	(25.4)	(21.6)	(21.6)	(11.8)

χ^2検定　＊＊＊　P＜0.001

表4-3-2　好きな科目　数学　　（ ）内：%

		全く好きではない	あまり好きではない	どちらとも	少し好き	大変好き	習っていない
人数	823人 (100.0)	151 (18.4)	192 (23.3)	214 (26.0)	177 (21.5)	64 (7.8)	25 (3.0)
[性]***							
男子	304(100.0)	(17.1)	(19.7)	(29.3)	(21.7)	(11.2)	(1.0)
女子	519(100.0)	(19.1)	(25.4)	(24.1)	(21.4)	(5.8)	(4.2)

χ^2検定　＊＊＊　P＜0.001

表4-3-3　好きな科目　国語　　（ ）内：%

		全く好きではない	あまり好きではない	どちらとも	少し好き	大変好き
人　数	823人 (100.0)	80 (9.7)	193 (23.5)	267 (32.4)	218 (26.5)	65 (7.9)
[性]***						
男　子	304(100.0)	(14.5)	(29.3)	(32.2)	(19.4)	(4.6)
女　子	519(100.0)	(6.9)	(20.0)	(32.6)	(30.6)	(9.8)

χ^2検定　＊＊＊　P＜0.001

勉強意欲の測度として，英語，数学，国語をどの程度好きかをたずねた。質問23では，上記3科目だけでなく，選択科目までを含めて質問した。英，数，国を調査の対象としたのは，全員が履修している科目であり，高校生の基本科目と考えたからである。

表4-3-1が示すように，英語を「好きでない」者は，「全く」と「あまり」を合わせると，48%あり，約半数が英語を好きでない。英語を「大変好きな」者10%，「少し好きな」者約20%である。

学年差は学校差と考えたい。性差があり，女子の方が英語が好きである。

表4-3-2が示すように，数学を「好きでない」者は42%あり，「好きな」者は約30%である。なお，「習っていない」者が3%（25名）いる。性差があり，「大変好き」は男子が多く，「好きでない」及び「習っていない」即ち数学を選択しない者は女子の方が多い。

表4-3-3が示すように，国語を「好きでない」者は33%，「好きな」者34%である。英語や数学よりも，「好きでない」者は少ない。性差があり，「好きでない」者は男子が多く，逆に，国語を「好きな」者は女子が多い。

エ　得意な科目

表4-4-1　得意な科目　英語　　（　）内：%

		全く得意ではない	あまり得意ではない	どちらとも	少し得意	大変得意	習っていない
人数	823人 (100.0)	223 (27.1)	212 (25.8)	211 (25.6)	124 (15.1)	52 (6.3)	1 (0.1)
[性]***							
男子	304(100.0)	(31.6)	(27.3)	(25.0)	(10.9)	(5.3)	(0.0)
女子	519(100.0)	(24.5)	(24.9)	(26.0)	(17.5)	(7.0)	(0.2)

χ^2検定　＊＊＊　$p<0.001$

表4-4-2　得意な科目　数学　　（　）内：%

		全く得意ではない	あまり得意ではない	どちらとも	少し得意	大変得意	習っていない
人数	823人 (100.0)	181 (22.0)	200 (24.3)	231 (28.1)	130 (15.8)	54 (6.6)	27 (3.3)
[性]***							
男子	304(100.0)	(19.7)	(23.0)	(27.3)	(19.4)	(9.5)	(1.0)
女子	519(100.0)	(23.3)	(25.1)	(28.5)	(13.7)	(4.8)	(4.6)

χ^2検定　＊＊＊　$p<0.001$

表4-4-3　得意な科目　国語　　（　）内：%

		全く得意ではない	あまり得意ではない	どちらとも	少し得意	大変得意	習っていない
人数	823人 (100.0)	95 (11.5)	195 (23.7)	335 (40.7)	157 (19.1)	40 (4.9)	1 (0.1)
[性]***							
男子	304(100.0)	(18.8)	(28.6)	(37.8)	(12.2)	(2.6)	(0.0)
女子	519(100.0)	(7.3)	(20.8)	(42.4)	(23.1)	(6.2)	(0.2)

χ^2検定　＊＊＊　$p<0.001$

質問24で，次の項目が得意かどうかを聞いた。これは，学業成績の測度にするためである。

英語を「全く得意でない」と回答した者27%，「あまり得意でない」と回答したもの26%である。2つ合わせて53%になる。一方，「大変得意」6%，「少し得意」15%で，両者合わせても22%である。男女差があり，女子の方が「得意な」者がやや多い（表4-4-1）。

数学を「全く得意でない」と回答した者22%，「あまり得意でない」と回答した者24%であり，2つ合わせて，46%になる。一方，「大変得意」7%，「少し得意」16%である。2つ合わせても22%である。英語の場合と同じく，数学においても，得意とする者は，少ない。男女差があり，男子の方が「得意な」者が多い（表4-4-2）。

国語を「全く得意でない」と回答した者12%，「あまり得意でない」と回答した者24%，2つ合わせて36%である。英語や数学よりも「得意でない」者は少ない。一方，「大変得意」5%，「少し得意」19%である。2つ合わせて，24%である。国語を「得意」とする者は，英語や数学よりも多いとまでは言えず，ほぼ同じである。その代り，「普通である」が41%と国語の場合は多い。男女差があり，国語を「得意」とする者は女子の方が多い（表4-4-3）。

5．飲酒と喫煙

高校生は，未成年であるので，飲酒と喫煙は法で禁止されている。しかし，飲酒や喫煙をする高校生は少なくない。飲酒や喫煙が，高校生の性経験の先行要因になっているだろうとの観点から，この2つを取り上げた。

表5-1　飲酒　　（　）内：%

		毎日	時々	たまに	飲まない	無記入
人数	823人 (100.0)	17 (2.1)	132 (16.0)	310 (37.7)	340 (41.3)	24 (2.9)
[性]***						
男子	304(100.0)	(4.3)	(16.5)	(36.5)	(38.3)	(4.0)
女子	519(100.0)	(0.7)	(15.8)	(38.3)	(42.8)	(2.3)

χ^2検定　＊＊＊　$p<0.001$

表5-2　喫煙　　（　）内：%

		毎日	時々	たまに	吸わない	無記入
人　数	823人 (100.0)	92 (11.2)	27 (2.1)	38 (4.6)	651 (79.1)	25 (3.0)
[性]***						
男　子	304(100.0)	(19.1)	(1.6)	(5.3)	(70.4)	(3.6)
女　子	519(100.0)	(6.6)	(2.3)	(4.2)	(84.2)	(2.7)

χ^2検定　＊＊＊　$p<0.001$

ア　飲酒

表5-1が示すように，高校生であるのに，「毎日飲む」と回答した者は，2%，17人いる。「ときどき飲む」は16%である。「たまに飲む」は38%，「飲まない」は41%である。「毎日飲む」「ときどき飲む」というこれらの層が，我々としては，気になる生徒たちである。男女差があり，「飲む」生徒は，男子の方が多い。

イ　喫煙

表5-2が示すように，たばこを「ほとんど毎日吸う」と回答した者は，11%，「ときどき吸う」2%，「「たまに吸う」5%，「吸わない」79%である。「毎日吸う」「ときどき吸う」者は我々としては，気になる生徒たちである。男女差があり，毎日の喫煙者は男子が圧倒的に多い。男子は5人に1人がほとんど毎日喫煙している者である。

6．性経験

ここでは，質問18（セックスの経験），質問19（コンドームの使用），質問20（コンドームを使用しなかった理由）を報告する。結果は，全体の傾向とデモグラフィックな変数，エイズに関する知識，意識，エイズ予防教育，学校生活の楽しさ，進路，好きな科目，得意な科目，飲酒，及び喫煙との関連を必要に応じてみていく。

ア-1　性行為の経験があると報告した者は，全回答者（823名）の16%（134名）である（表6-1）。学年別にみると，3年生22%，2年生15%で，学年が上の方が，セックス経験者が多くなっている。男女差は有意にはいたっていない。アメリカの心理学者 Flora, A. J., & Thoresen, C. E. (1988) は，10代のセックス経

験は，妊娠及びHIV感染のリスクが大きくなるので，出来るだけ遅らせるよう指導すべきだと言っている。

ア-2　エイズウィルスに感染してから発病までの潜伏期間についての知識は，セックス経験のある者は，ない者よりも「1年～10年」の正解率が低く，そして「わからない」が多い。

ア-3　エイズ予防教育と性経験との間に関連はみられなかった。

ア-4　エイズに対する意識と性経験との関連では，性経験のある者は，ない者よりも，エイズによって被害を受けると認知している。

ア-5　学校生活が「全然楽しくない」と回答した者は，「少し楽しい」と回答した者よりも，セックスを経験した者が多い（表略）。

また，表6-2が示すように，進路については，「就職」や「専門学校」と回答した者は「大学」や「短大」と回答した者よりも，セックス経験者が多い。

表6-1　性経験の有無　　（ ）内：%

		ある	ない	無記入
人　数	823人(100.0)	134(16.3)	666(80.9)	23(2.8)
[学年]*				
2　年	627(100.0)	(14.5)	(84.1)	(1.4)
3　年	196(100.0)	(21.9)	(70.9)	(7.1)
[性]				
男　性	304(100.0)	(14.8)	(82.6)	(2.6)
女　性	519(100.0)	(17.2)	(80.0)	(2.9)

χ^2検定　*　$p<0.05$

表6-2　高校生の性経験と進路，飲酒，喫煙

		ある	ない	無　答
全　体　人数	823人	134	666	23
%	100.0	16.3	80.9	2.8
[進　路]***	人数	%	%	%
就　職	150	30.7	66.0	3.3
大　学	324	9.9	88.0	2.2
短　大	148	10.1	86.5	3.4
専門学校	112	24.1	73.2	2.7
未　定	89	15.7	80.9	3.4
[飲　酒]***				
ほとんど毎日	17	58.8	41.2	0.0
ときどき	132	32.6	59.9	7.6
たまに	310	19.0	79.7	1.3
飲まない	340	5.0	92.9	2.1
無　答	24	20.8	70.8	8.3
[喫　煙]***				
ほとんど毎日	92	52.2	41.3	6.5
ときどき	17	47.1	52.9	0.0
たまに	38	26.3	68.4	5.3
吸わない	651	9.7	88.5	1.8
無　答	25	20.0	68.0	12.0

χ^2検定　***　$p<0.001$

英語や国語を「全く得意でない」者は，「少し得意でない」群よりも，セックス経験者が多い。ただ，国語を「大変得意である」と回答している者も，セックス経験が多い。

ア-6　性経験があると報告した者は，全体では16%であった。しかし，性経験と飲酒の関連をみると，「ほとんど毎日飲む」と報告した者は，59%が，「ときどき飲む」と報告した者は，33%が性経験をしている。逆に，「飲まない」と報告した者は，5%しか経験していない。飲酒と性経験は，密接に関連している（表6-2）。Flora & Thoresen (1988) は，最初の性経験と飲酒は高い相関があると言っている。我々の調査では，最初の性経験というたずね方はしていなく，ただ「セックスの経験」という聞き方をしているが，ほぼ同様のことが確認されたと思う。Flora & Thorensenは，若い青年に，過度の飲酒を控えるように，或いは，飲酒を試みることはいないように，援助することは，いろいろな場面での無防備なセックスをする可能性を低めるのに，役立つと述べている。

表6-2が示すように，性経験と喫煙との関連においても，飲酒の場合とほぼ同じことが言える。即ち，「ほとんど毎日吸う」と報告した者は52%が，「ときどき吸う」と報告した者は47%が，性経験があると回答している。逆に，「吸わない」と報告している者は10%しか性経験していない。性経験と喫煙は密接に関連している。たばこを吸わないこと或いはたばこを吸い始めるのを遅らせることは，身体的な健康によいだけでなく，妊娠やHIV感染のリスクのある性経験をしないこと

表6-3　コンドーム使用の有無　　（ ）内：%

予防教育		いつも使用	時々使用	使用せず	無記入
人　数	134人 (100.0)	36 (26.9)	49 (36.6)	22 (14.9)	27 (20.1)
[性]					
男　子	45(100.0)	(24.4)	(31.1)	(24.4)	(20.0)
女　子	89(100.0)	(28.1)	(39.3)	(10.1)	(20.5)
[学年]***					
2　年	91(100.0)	(30.8)	(46.2)	(19.8)	(3.3)
3　年	43(100.0)	(18.6)	(16.3)	(4.7)	(60.5)

χ^2検定　***　$p<0.001$

表6-4　コンドームを使用しなかった理由（複数回答）

（ ）内：%

コンドームを使用しなかった理由	該当者数	持参せず	使用法不明	煩わしい	恥ずかしい	相手不同意	不快である	妊娠しない	要求されず	性病の心配なし	気にしない	その他
総　数	71人	31 (43.7)	3 (4.2)	26 (36.6)	3 (4.2)	10 (14.1)	27 (38.0)	17 (23.9)	8 (11.3)	12 (16.9)	28 (39.4)	7 (9.9)
[性]												
男　性	26	(30.8)	(7.7)	(46.2)	(3.8)	(3.8)	(57.7)	(7.7)	(15.4)	(7.7)	(30.8)	(15.4)
女　子	45	(51.1)	(2.2)	(31.1)	(4.4)	(20.0)	(26.7)	(33.3)	(8.9)	(22.2)	(44.4)	(6.7)

につながると考えられる。

イ-1　性行為とコンドームの使用

高校生で，性経験のある者は，前項で述べたように134名いたが，その時のコンドーム使用については(質問19)，「いつも使用した」者が，そのうちの27%（36名）に過ぎない。残りは，妊娠や HIV 感染のリスクがある「コンドームを時々使用した」者37%（49名），「コンドームを全く使用しなかった」者16%（22名）である（表6-3）。後者2つの計71名は，リスク群あるが，今回の全サンプル（823名）の9%である。高校生を対象とした今回の調査で，コンドームをいつも使用した者は27%であったが，前の我々の調査（高橋ほか，1995）では，四大生はいつも使用した者は69%，短大生は44%であった。Brooks-Gunnら（1988）は，10代は，HIV 感染の確率が高いこと及び性経験後しばらくはなかなかコンドームを使用しない傾向があることを述べているが，今回の我々の調査でも，同様のことが確認された。なお，無回答が20%あった。学年差はみられるが，3年生に無回答が極端に多く，その影響をもろに受けている。コンドームの使用の有無をたずねる質問には，性行為の場面を想起して回答しなければならないので，高校生に対しては，調査方法を工夫しないと，無回答が多くなると考えられる。

イ-2　コンドームの使用の有無とエイズ意識

コンドームの使用の違いによって，エイズの被害度，防止の可能性等のエイズ意識に差があるかどうかを検討したところ，差はみられなかった。

イ-3　コンドームの使用の有無とエイズ予防教育

エイズ予防教育を受けた者と受けなかった者との間に，コンドームの使用に違いにあるかどうかを検討したが，有意差がみられるまでにはいたらなかった。

ウ　コンドームを使用しなかった理由

性行為の時，コンドームを使用しなかった者は，71名いたが，その主な理由（質問20，複数回答）は，%が多い順に，20%以上が回答したのをあげると，「持参していなかった」「特別気にしなかった」「面倒・煩わしい」「楽しみが減る・不快である」「妊娠の心配がなかった」である（表6-4）。男女差があり，男子の一番の理由は，「楽しみが減る・不快である」であり，女子の一番の理由は，「持参していなかった」である。妊娠及び HIV 感染のリスクを考える時，高校生は，第一に，性行為を避けるべきであると考えるが，第二には，もし性行為をするなら，コンドームを使用すべきである。この点，エイズ予防教育を，早急に，きめ細かに，行うべきである。

IV. 要約及び提言

本研究は，HIV 感染の広がりの予防策を考えるために，高校生を対象として，エイズに関する知識と意識，エイズ予防教育，性行動，及び性行動の先行要因として，飲酒，喫煙，学校生活の楽しさ，進路，勉強意欲，学業成績を調査した。

調査対象は，中部地方の大都市郊外の3つの高校の2年生及び3年生である。有効回答数823名(内訳　男304名，女519名)，有効回収率96.8%。調査期間は，1994年11月から1995年1月である。

主な結果及び考察は次の通りである。

1．エイズに関する知識は，HIV の感染経路については多くの者が知っているが，感染の機会があってから HIV 抗体検査が可能になるまでの期間については，正解は低く，26%である。感染の機会があることを前提としたエイズ教育は，高校では十分に行われていないようである。

2．エイズに対する高校生の意識（態度）は，関心が高いとはとても言えない。しかし，エイズにかかる危険性は，「個人レベルの努力でかなり避けられる」と認知している。

3．エイズ予防教育の受講の有無については，46%の者が受講しており，受講した者は未受講の者と比し関心度が高い。

4.10代の性経験は，妊娠及び HIV を含む STD 感染のリスクが大きいと言われている。今回の調査で，性経験があると報告した高校生は16%である。学年差はあるが（高学年の方が高い），男女差はない。

性経験者は，HIV に感染してからエイズ発病までの潜伏期間についての知識が低く，性行為のリスクに対しての認識が低いものと思われる。

エイズ予防教育と性経験との間に関連はみられなかった。また，性経験のある者は，ない者よりもエイズによって被害を受けると認知している。

性経験の先行要因として，学校生活の楽しさ，進路，勉強意欲，学業成績，飲酒，喫煙を取り上げた。性経験とプラスに関連があるのは，学校が全然楽しくない，卒業後の進路が就職又は専門学校，英語，国語の成績が全くよくない(全く得意でない)，ほとんど毎日飲酒，喫煙している，である。これらのハイリスク層に対し，きめ細かにエイズ教育を行う必要がある。

性行為の時のコンドームの使用状況は，「いつも使用した」者は27%に過ぎず，残りは，妊娠及び HIV を含む STD（性行為感染症）感染のリスクがある「時々使用した」者37%，「全く使用しなかった」者16%である。2者の合計は，今回の全サンプルの9%である。

コンドームを使用しなかった主な理由は，「持参していなかった」「特別気にしなかった」「楽しみが減る」「面倒である」「妊娠の心配がなかった」である。男女差があり，男子の理由で一番多いのは「楽しみが減る」であり，女子の一番の理由は「持参していなかった」である。

提言1，妊娠及び HIV 感染のリスクを考えるとき，高校生は，第一に，性行為を避けるべきであると考え

るが，第二に，もし性行為をするなら，コンドームを必ず使用すべきである。

提言2．サンプルは，概して，エイズリスクを認知していなかった。きめ細かなエイズ教育が必要であるが，特に性経験と関連する要因を持っている被験者層に対しては，緊急に必要である。

提言3．飲酒や喫煙を控えるように，或いは，飲酒や喫煙を試みることはしないように指導することは，無防備な性行為の可能性を少なくする効果があるであろう。

文　　献

Brooks-Gunn, J., Boyer, C. B., & Hein K. 1988 Preventing HIV infection and AIDS in children and adolescents. American Psychologist, 43, 958-964.

Flora, J. A., & Thoresen, C. E. 1988 Reducing the risk of AIDS in adolescents. American Psychologist, 43, 965-970.

広瀬弘忠　1994　人類にとってエイズとは何か　NHKブックス

池内了　1999　エイズが問う政治の良心　朝日新聞8月5日朝刊

Kelly, J. A., Murphy, D. A., Silkkema, K. J., & Kalichman, S. C., 1993 Psychological interventions to prevent HIV infection are urgently needed. American Psychologist, 48, 1023-1034.

厚生省　1999　エイズ患者・HIV感染者情報　1999年7月27日発表資料

宗像恒次　田島和雄編　1992　エイズとセックスレポート／JAPAN　日本評論社

Takahashi, T. & Ito, M., 1994 AIDS awareness and attitudes among Japanese adults and adolescents. Tenth International Conference on AIDS Abstract Books, 2, 356.

高橋丈司　伊藤求　佐藤猛男　1995　学生と社会人のエイズに対する知識，態度及びリスク行動　愛知教育大学研究報告(教育科学)　44　121-136.

Takahashi, T. 1996 AIDS awareness and factors related to risky sexual behavior among Japanese high school students. XI International Conference on AIDS. Abstract Books, 2, 336.

Thompson, S. C. 1996 Illusions of safety in a risky world: A study of college students' condom use. Journal of Applied Social Psychology, 26, 189-210.

附記：調査にご協力いただいた皆様に深くお礼申し上げるとともに，本報告がエイズ予防の一助となれば幸いである。

参考のために，本報告に関する調査票を掲載する。

◎　あなた自身について次の項目についてお答えください。

学年　　年生

性別　男　女

1　エイズという病気を知っていますか。
(1) 知っている (2) 知らない

2　エイズという病気の原因は何ですか
(1) 細菌 (2) リッケチア (3) ウイルス (4) 原虫 (5) 寄生虫

3　エイズはどんな動物に感染しますか
(1) 人間だけ (2) 人間と猿の一種 (3) 人間と猫 (4) 人間と猿の一種と猫 (5) 人間と数種類の哺乳類

4　エイズの感染者・患者の一番多い国はどこですか。
(1) タイ (2) イギリス (3) フランス (4) アメリカ (5) 中国 (6) 日本

5　エイズはどのようにして感染すると思いますか。(いくつでも可)
(1) 食器を共用 (2) 蚊・昆虫に刺されて (3) 男性同性愛行為 (4) 異性間性行為 (5) せき・くしゃみ・唾液 (6) 理髪店・美容院 (7) プール・風呂 (8) 国内での輸血 (9) 注射器の回し打ち (10) トイレの便器 (11) 電車などの吊り革 (12) 握手 (13) 本・文房具，タオル・クシなどの日用品 (14) 母親から赤ちゃんへ

6　エイズの検査は，感染の機会があってから最低，どの程度の間隔が必要ですか。
(1) 1週間 (2) 3週間 (3) 1か月 (4) 3か月 (5) わからない

7　エイズに感染してから発病までの潜伏期間は，一般的にどのくらいと思いますか。
(1) 2～8週間 (2) 約3か月 (3) 1年～10年 (4) わからない

8　エイズに感染したことは，どうすればわかりますか。
(1) 自覚症状でわかる (2) 症状がでるので，他人が見てもわかる (3) 症状はないが，血液検査をするとわかる (4) 見当がつかない

9　あなたはエイズにどの程度関心がありますか。
(1) 全く無関心である (2) かなり無関心である (3) やや無関心である (4) 少し関心がある (5) かなり関心がある (6) 非常に関心がある

10　あなたはエイズについてどの程度不安を感じますか。
(1) 全く不安を感じない (2) ほとんど不安を感じない (3) あまり不安を感じない (4) 少し不安を感じる (5) かなり不安を感じる (6) 強く不安を感じる

11　エイズによって，あなたはどの程度被害を受けると思いますか。
(1) 全く被害を受けない (2) ほとんど被害を受けない (3) あまり被害を受けない (4) 少し被害を受ける (5) かなり被害を受ける (6) とても被害を受ける

12　自分がエイズ被害を防止すねることは，どの程度可能であると思いますか。
(1) 全く不可能である (2) ほとんど不可能である (3) やや不可能である (4) 少し可能である (5) かなり可能である (6) きわめて可能である

13　国や公共機関は，エイズに対して有効な対策を行うことがどの程度可能だと思いますか。
(1) 全く不可能である (2) ほとんど不可能である (3) やや不可能である (4) 少し可能である (5) かなり可能である (6) きわめて可能である

14　個人レベルの努力で，エイズにかかる危険がどの程度避けられると思いますか。
(1) 全く不可能である (2) ほとんど不可能である (3) やや不可能である (4) 少し可能である (5) かなり可能である (6) きわめて可能である

15　あなたはエイズに関して十分な知識があると思いますか。
(1) 知識は全くない (2) 知識はほとんどない (3) 知識はあまりない (4) 知識は少しある (5) 知識はかなりある

(6) 知識はきわめてある

16 今までに，エイズの予防教育を受けたことがありますか。
(1) ある (2) ない

17 エイズについてはどのような方法で，知識を得ましたか。(いくつでも可)
(1) マスコミ(テレビ，ラジオ，新聞など) (2) 雑誌，週刊誌など (3) 保健所等の行政機関 (4) 診療所，病院 (5) 家族 (6) 知人，同僚 (7) 学校，先生 (8) ポスター，パンフレットなど (9) わからない (10) その他 (　　)

18 あなたはセックスをしたことがありますか。
(1) ある (2) ない

19 その時，コンドームを使用しましたか。
(1) いつも使用した
(2) 使用したことがある (3) 使用しなかった

20 この時，コンドームを使用しなかった主な理由はなんですか。(いくつでも可)
(1) 持参していなかった (2) 使いかたがわからなかった (3) 面倒・煩わしい (4) 相手に要求することが恥ずかしい (5) 相手の同意が得られない (6) 楽しみが減る・不快である (7) 妊娠の心配がなかった (8) 相手から要求されなかった (9) エイズを含め性病の心配がなかった (10) 特別気にしなかった (11) その他 (　　)

21 あなたは，学校生活が楽しいですか。
(1) 全然楽しくない (2) あまり楽しくない (3) どちらともいえない (4) 少し楽しい (5) 大変楽しい

22 卒業後の進路の予定は何ですか。
(1) 就職 (2) 4年制大学 (3) 短期大学 (4) 専門学校 (5) 未定

23 あなたは，次の科目がどの程度好きですか。(　) の中に該当の番号を記入してください。
(1) 全く好きではない (2) あまり好きではない (3) どちらともいえない (4) 少し好きである (5) 大変好きである (6) 習っていない (選択していない)
英語 (　) 数学 (　) 国語 (　) 物理 (　) 化学 (　) 生物 (　) 地学 (　) 地理 (　) 日本史 (　) 世界史 (　) 政経 (　) 倫社 (　) 音楽 (　) 美術 (　) 技術家庭 (　) 体育 (　)

24 あなたは，次の科目が得意か(成績がよい)どうかお聞きします。(　) の中に番号を記入してください。
(1) 全く得意ではない (2) あまり得意ではない (3) 普通である (4) 少し得意である (5) 大変得意である (6) 習っていない (選択していない)
英語 (　) 数学 (　) 国語 (　) 物理 (　) 化学 (　) 生物 (　) 地学 (　) 地理 (　) 日本史 (　) 世界史 (　) 政経 (　) 倫社 (　) 音楽 (　) 美術 (　) 技術家庭 (　) 体育 (　)

25 あなたは，お酒を飲みますか。
(1) ほとんど毎日飲む (2) ときどき飲む (3) たまに飲む (4) 飲まない

24 あなたは，喫煙(たばこ)しますか。
(1) ほとんど毎日吸う (2) ときどき吸う (3) たまに吸う (4) 吸わない

(平成11年9月10日受理)